

原子力に頼らない

村上市立村上東中学校三年 小田 寛乃

東日本大震災から、毎日のようにテレビでは原子力について報道されている。専門家や政治家がそれぞれの意見を主張しているが、私は原発は必要ないと考える。

第一に原子力によってもたらされる被害の大きさに対する不安がある。私も最近までは原子力と言われても遠い存在のように感じていた。しかし、日本には広島、長崎に原子爆弾が投下されたという過去があった。先日、学校で広島の原爆についての体験談を聞くことができた。その体験談はとても残酷で本当に昔、日本で起きたことなのかと信じられなかった。広島は街が復興するのはどれほど大変だっただろう。また、一瞬で命を奪われた人、助かりながらも、苦しみながら息絶えた人。三十六万もの命が奪われたと聞いた。助かった人の中でも、心や体に負った傷が回復するのがどれほど大変だったかも聞いた。原爆はとても恐ろしい兵器だ。そして一歩間違えれば原子力も同等に恐ろしいものになってしまうのではないかと不安な気持ちになった。

第二に、東日本大震災の原子力発電所の事故の被害が大きいことだ。一瞬だった原爆とはまた少し違う、放射能による被害である。原爆でも放射能の影響で病気で亡くなる人が多かった。今回の原子力発電所での事故は、放射能が何十キロに渡って飛び広がった。もちろん、原発周辺の地域は避難を余儀なくされた。避難地域でなくても、自主的に避難し、遠い親戚を頼って別の土地や県に引っ越してしまった人は九万九千人もいたそうだ。避難した人の中には、家族と離れて暮らさなければならなくなった人もいる。私たちの中学校にも福島から転校してきた生徒がいて、大切なふるさとを離れて暮らしている。また、避難者の問題の他に、農家や漁師の方々の問題がある。おいしく実った果実や野菜、魚でも出荷できず食べることもできない。放射能で汚染されてしまったからだ。そのために仕事を辞めざるをえない人も多い。その他にも、汚染水や汚染された大気、そしてがれきなどの処理にはこれから数十年から百年近くかかる。

原発は福島だけではなく、全国にある。新潟県にも柏崎刈羽原子力発電所があり、再稼働についての話し合いがされている。日本は地震大国で、いつまた大きな事故が起きるか分からない。これからの日本のためにも、同じ事故を繰り返さないよう、原発はなくすべきなのだ。

ここまで原発を否定してきたが、確かに、原発をなくして私たちは生活していけるのかという疑問もあるだろう。実際に全国でほとんどの原発が停止しており、電気の安定した供給が心配されている。今まで原発は私たちの生活を支えてきたのである。しかし、原発のありがたが問われる今こそ、私たちが変わるチャンスなのではないだろうか。世界では、東日本大震災の事故を受け、原発を減らしたり廃止したりする国もあり、原発廃止に向け動き出しているのだ。原爆投下を受け、震災での原発問題に向き合っている私たち日本が動かなければ世界も変わっていかない。

私たちにもできることがある。ちょっとした心がけでできる省エネである。使っていない電気を消すこと、エアコンの設定温度に気をつけることなどだ。そんなことで変わるはずがないという人もいるだろう。しかし、そういう小さなことから始めることが大事な

だと思う。そして、私たちは情報を得ることも大切なことだ。テレビのニュースやインターネットでもいい。原子力の問題に対して興味を持ったら、自分で調べたり、聞いてみたりすることだ。自分なりの意見や感想を持つこと、そして今、日本が抱えている原発という問題に意識を向けることこそ、これからの日本の未来や世界の平和につながっていくのではないだろうか。

私たちは今持っている様々な技術や知識を活用して、原発のエネルギーに頼らずに生活していくために努力をしていくべきだ。そのために私たち一人一人が自分にできることを考え、行動していくことが大切なのだ。